

平成28年度

## 事務事業評価表 A ( 平成27年度 の実績評価)

記入年月日

### 【Do】 1. 事務事業の現状把握（その1）

## （1）事務事業の概要

手段	①事務事業の概要（事務事業の全体像）	②担当者が行う業務の内容・やり方・手順
	<p>中学校の第2学年生徒が立志事業（立志のつどい・立志文集の作成など）を通して自己を理解するとともに、自分の進路、夢を考える機会とし、自己実現への意欲の高揚を図ることを目的に各中学校において立志事業を実施している。この事業に要する経費は各中学校とも予算令達により執行している。</p>	<p>学校予算配分事務・執行管理指導</p>

## (2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移

①手段 (担当者の活動内容)	④活動指標 (活動量を表す指標)	単位	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (計画)	29年度 (目標)	30年度 (目標)
学校予算配分事務	立志のつどい実施校数	校	50.00	5.00	5.00	5.00	5.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			455.00	469.00	469.00	469.00	469.00
②対象 (誰、何を対象にしているのか)	⑤対象指標 (対象の大きさを表す指標)	単位	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (計画)	29年度 (目標)	30年度 (目標)
中学校中学校の第2学年生徒	中学校の第2学年生徒数	人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
③意図 (この事業によって対象をどう変えるのか)	⑥成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)	単位	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (計画)	29年度 (目標)	30年度 (目標)
自分の進路や生き方を考える機会を与える。	立志のつどい参加者数	人	455.00	469.00	469.00	469.00	469.00
	記念文集作成者数	人	455.00	469.00	469.00	469.00	469.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

### (3) カ入量(事業費)の推移

(3) 投入量(事業費)の推移		(実績)	(実績)	(計画)	(目標)	(目標)	総投入量
投 入 量	財 源 内 訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出し金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		使用料・手数料	千円	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0
		一般財源	千円	735	709	735	0
		事業費計(△)	千円	735	709	735	0
	人 件 費	正規職員従事人数	人	1,00人	1,00人	1,00人	1,00人
		述べ業務時間	時間	10.00	10.00	10.00	10.00
		人件費計(○)	千円	29	29	29	29

(4) 当該年度の実施内容	28年度の事業内容	29年度の事業内容	30年度の事業内容
<p>※下記に該当する事業は、年度ごとに事業内容を記入する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主要事業</li> <li>・市長マニフェスト</li> <li>・未来PJ事業</li> <li>・合併建設計画事業</li> </ul>			

事務事業名	立志事業助成事業	事務事業No.	30102000154	所属課	学校教育課
【Do】 1. 事務事業の現状把握（その2）					
(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？					
中学2年生は、中途の学年で、目標を失いがちな学年である。このような学年に立志事業を行い自己を見つめ直し、自分の進路や生き方などを考える機会を与えるために事業を開始する。開始年度は不明（武家社会の元服式を真似た行事）特に変わった点はない。					
(6) この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者）からどんな意見や要望が寄せられているか？					
保護者からは大変有意義な事業と評価されている。					
(7) 前回の事務事業評価に対する改革・改善の具体的な内容					

【See】 2. 評価の部 \*原則は事前評価。

## 評価項目

評価項目	
①政策体系との整合性	（この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？）
目的妥当性	結びついている 中学2年生に、立志事業を通して自己を見つめ直し、自分の進路や生き方などを考える機会を与えるための事業なので、学校教育の充実に結びつく。
②公共関与の妥当性	（なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？）（法定受託事業はその名称）
妥当である	中学2年生に、立志事業を通して自己を見つめ直し、自分の進路や生き方などを考える機会を与えることは、市教育委員会の責務である。
③成果の向上余地	（成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？）
向上余地がない	それぞれの中学校の生徒が主体となって、毎年立志事業の内容を工夫して実施している。
④廃止・休止の成果への影響	（事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？）
影響有	中学校2学年生徒が自己実現の意欲の高揚が図れなくなる。
⑤類似事業との統廃合・連携の可能性	（類似事業や統廃合の可能性がありますか？（市以外の取り組みも含む））
（他に手段がある場合）	具体的な手段、事務事業名
余地がない	他に類似事業はない。
⑥事業費・人件費の削除余地	（成果を下げずに事業費を削除できないか？やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか？）
削減余地がない	事業費削減に向けて毎年事業を工夫しているが現時点では無理である。
⑦受益機会・費用負担の適正化余地	（事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？）
公正・公平である	中学2学年全生徒を対象にしているので、受益負担は公平・公正である。

## 【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性（次年度計画と予算への反映）

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括（振り返り、反省点）																			
①目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	市内全中学校第2学年を対象に行っている事業であり、中学校の中間期において、自己を見つめ直し、自分の進路や生き方などを考える良い機会である。次年度以降も引き続き予算要求し、事業を継続していきたい。																			
(3) 今後の事業の方向性																				
□ 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 繼続 → □ 改革改善を行う → <input type="checkbox"/> 目的の再設定 <input type="checkbox"/> 効率性の改善 □ 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 → <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 有効性の改善 <input type="checkbox"/> 公平性の改善 (複数回答可) <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input type="checkbox"/> 連携ができる																				
(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">成果</th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>		成果	コスト			削減	維持	増加	向上				維持		○		低下	×	×	×
成果	コスト																			
	削減	維持	増加																	
向上																				
維持		○																		
低下	×	×	×																	
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																				
(6) 事務事業優先度評価結果																				
成果優先度評価結果 (4)																				
コスト削減優先度評価結果 (8)																				

## 【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価（課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合）
課長確認後の評価	
A: 繼続（現状維持） B: 繼続（改革改善を行う）	C: 終了、廃止、休止 D: 2次評価へ提出
確認欄	